

稲毛校のアドバイザーが まとめた各教科の勉強法！

1英語 BY坂井

2数学 BY吉田

3生物 BY渡邊

4日本史 BY金親

詳しい勉強法など
詳しい人達に
聞いてみましょう！

他の科目も
Coming soon...

英語の偏差値の上げ方

【大前提】

・ 毎日英語に触れる事

→自分で毎日何時間やるか決めて行う事が大切です。2時間と決めれば2時間やる。そうすると『昨日の方が集中できた』などと自己分析ができるようになります。それを続けていく事で成果のある勉強法を取得できるようになります。

・ 単語に関して

①人間は忘れる生き物という前提で

②どういう形で使われるかを意識しながら覚える事

→英単語はアルファベットですから、当然スペルなんかは記憶に残りにくいのです。もし、英単語帳を1時間ずっと見ている人がいたら、20分×3回にかえましょう。また、品詞や自動詞か他動詞か等を意識して覚えていきましょう。タイミングとしては、夜寝る前（つまり他の新しい情報がもう入ってこない時）に必ず英単語を見るという事を心掛けましょう。

暗記のための暗記では、もう受験英語に対応できません。この単語帳はもう全部覚えたから次の単語帳に…なんて言語道断。本当に派生語まで覚えていますか？

単語を覚えたら、その単語がどういう使われ方をしているのかまで覚えられるといいです。その点でシステム英単語帳やターゲットはおすすりめです。

英語の偏差値の上げ方

- ・「**今、どんな知識が問われているのか**」と常に意識。

→学校の定期テストや小テストはできるのに、模試ではできない…それは、どの問題がどの知識を問われているのか意識できていないからです。もちろん、準動詞と受動態が混じっていたり、熟語の問題だったりしますが、問題を解いている時に「あ、今これを学んでいるんだ」を意識しましょう。

- ・**3長文は暗記し、精読できるようにする事。**

→複雑な文構造が入り組んでいる文や難しい単語、副詞等がたくさん使われている文を何回も音読、文型や文構造を把握しその文を覚えてしまう事が望ましいです。

文を覚える事で応用力が付き、「あ、この文構造知ってる」という現象が起こります。最初は文章を聞きながら耳で覚えるのが良いと思います。

マナビスの英読解の講座は細かくレベルが分かれているので、英読解が苦手な人は比較的読みやすいレベル1やレベル2を受講しましょう。重要構文や文意・文脈を正確に理解する力を身に着け、苦手だと思っていた英語読解を克服！レベル3からは、比較的難易度の高い単語や語法が文中に出てくるので英語に自信がある人におすすめです。レベル4以降は、受験生が躓きやすい社会系や自然科学系の文、エッセイや小説などを読み進め、抽象度の高い、いわゆる難しい文章を解釈→解答できる力を養います。

レベル3以降で扱われるような複雑な文を何回も繰り返し音読し、精読できるようになる事で英語力はどんどん上がります！もちろん、レベル1の短文を精読できる力がないと難しいので、早めの対策を！

数学の偏差値の上げ方

【大前提】

・公式を覚える

→ここが曖昧なままになっていると、いくら問題を解こうともなかなか伸びないです。まずはしっかり確実に覚えること力を使おう。こんなの当たり前じゃんと思う方。公式の意味、公式の導出まで理解していますか？さらにそれを覚えることで、いろいろな問題を解ける幅が広がります！侮らずに確実なものにしていこう。

【問題を解くとき意識することは】

①解答への目的意識

→この問題はどのようなことを聞いているのか、前の問題をどのように使って解くのかなど、ある程度の解答の道筋を思い浮かべて解こう。無鉄砲に進めていても問題は解けません。日頃から、この問題が出たということはおそらくこの解法を使ってこの手順でとくのだろうというキーポイントを見つけておくことを意識しましょう。

②理論的に考える意識

→ただ解法を覚えたただけとなると、なかなか問題を解けるようにはなりません。解法を理論的に覚え、なぜここでこの解き方を使ったのか、なぜここからこのような答えが導かれるのかなど、理論的に考えるようにしてそのクセをつけましょう。

数学の偏差値の上げ方

【おすすめの勉強】

・何も見ずに問題を解こう。

自分の持っている知識を最大に活用しよう。解けたらOK！解けずに10分程度手がとまってしまいうようであったら解答を見よう。効率的にはあまり時間をかけすぎないことも大切。

・解答・解説を分析しよう。

前述のとおり数学は理論的に考えることが大切。なぜ解説はこのように解くのかなどを覚えるのではなく考えよう。また、自分はどこまで何も見ずに解けているのか、どこから詰まってしまったのかもしっかりと確認、分析しよう。

・類似問題を解こう。

解答・解説を読んで理論的に理解すると、自分はできるようになったと思いがち。解説を読んだ上でもう一回何も見ずに解けるかどうかや、同じような形式の問題を繰り返すとくようにしよう。絶対解説を読んだままにしないこと！

・計算ミス撲滅

常日頃から計算ミスをなくすための確認を欠かさないようにしよう。怠っていると計算ミスは減りません。慣れてくると計算ミスの確認は一瞬でできるようになります。

生物の偏差値の上げ方

【勉強する上で大切にすべきこと】

① 理屈を理解する

・生物の知識を理解・暗記していくうえで、最も大切になっていくのは『現象について理解する』ということです。生物で学ぶものの多くは『現象』についてであり、それに対しての理解が深まっていかないといつまでたっても成績は上がりません。物事単体について学習するのではなく、それがあつて起こる働きや、他の物質や流れに及ぼす影響まで理解できるようにするととても良いです。

生物で学ぶ現象はほとんど図や表で表すことが可能です。それらの流れや働きを理解するために図解を確認したり、自分で図などにまとめてみたりするとより理解が深まります。

また、代表的な表やグラフについては、それが何を伝えたいものなのかをしっかりと覚えていきましょう。酸素解離曲線やオーキシン濃度のグラフなど大事なものは多くあります。

化学式などを覚えていくのも大事なところでは。光合成の化学式、さらつと言えますか？グルコースの化学式、言えますか？生物において、重要な化学式は覚えなければ問題は絶対に解けません。侮らず、1つ1つ確実に覚えていきましょう。

以上のことを暗記・理解していくことで、使うことのできる知識が増え、考察問題や論述問題が解けるようになってきます。1つ1つの知識を侮らずに覚えて確実に自分のものにしていきましょう。

生物の偏差値の上げ方

②知識を蓄える

・知識がない状態で考察問題や計算問題に手を出しても、問われている問題に対しての知識を運用できないため、全く意味がありません。まずは知識が頭の中に**インプット**されているかを確認するために知識問題から始めましょう。

また、生物では教科書に載っていない事柄も出てくるが多々あります。しかし、その場合はそれに関連している知識を使うことで解答することが可能であることが多いです。絡み合っている知識を**関連**づけて、**問題を通して自分のものにしていく**ことも生物を勉強していく上では大切なことです。

【問題演習について】

生物の問題は主に知識問題・考察問題・計算問題の3つに分類されます。特に考察問題は「**読解力**」が問われます。長い文章の中から必要な情報を把握することはなかなか難しいです。できるだけ多くの問題をこなして問題パターンをつかんだり、読解力を高めていくことが大切です。知識問題・計算問題については、上記に記した通り、それに対しての**前提知識**がないと問題は解くことができません。

必要な知識をしっかりと覚えたいうえで問題に取り組んでください。

日本史の偏差値の上げ方

【勉強のときに意識すること】

①通史を覚える

まずは政治の流れを理解できるようにしましょう。流れを確認する際に、**政治の中心にいた人物**がどのような順番で変わっていったのかを、口で言えるくらいになると良いです。中心の人物は、時代によって**天皇、摂関、将軍、総理大臣**など様々です。彼らがその時代の政治を覚えるための**軸**になります。

次にその軸に出来事を組み合わせていきます。出来事は、それ単体で覚えるのではなく、その出来事の**背景**や**結果**、その後への**影響**をしっかりと説明できるようにしましょう。論述問題でたまに出る、「○○について200字以内で書きなさい」のような問題が問われても解けるくらいになれば、問題ないと思います。

出来事の**年号**は、できるだけ覚えるようにしましょう。特に**近代**は1年ごとに起こるできごとが多いのでしっかり覚えたほうが良いです。前近代であっても少なくとも10年単位くらいまでは覚えられると、時代感がつきやすくなります。

社会史では、名称やその内容を覚えるのはもちろん、その**前の時代から何が変わったのか**を明確にしましょう。変わった**原因**も政治的、外交的理由なのか、技術の発展が理由なのかなど様々なので、そこまで突き詰められるとなお良いです。

日本史の偏差値の上げ方

② テーマ史について

日本史の大問は時代ごとのくくりだけでなく、**時代を超えたある一つのテーマ**によって構成されることがあります。よくあるテーマが**外交、交通、教育**などです。このテーマ史をしっかりとおさえることで、テーマ史の大問をとりやすくなるだけでなく、その分野における理解をより深めることができます。問題集にもテーマ史が含まれたものが多いので、たくさん練習するようにしましょう。

③ 文化史について

日本史を勉強するにあたって多くの人が苦戦するのが文化史です。文化史は深くまでやろうとするとそれだけで1教科にできるほどの暗記量がありますが、**日本史が苦手な人は最低限、時代ごとの代表的な作品**だけでもおさえられると思います。ほとんどの試験は政治・社会・経済の問題で**8割**以上の点数がとれるので、あまり深くまではやらず他のものに勉強時間を使うのもひとつの手です。逆に**日本史が得意な人は**、文化史は他の受験生に差をつける絶好のチャンスであり、文化史で点が取れると非常に安定して高得点が見込めるようになります。